

新時代の飛騨牛担う 繁殖研修施設が開所

飛騨市第1期生が決意

飛騨市古川町中野の飛騨牛繁殖研修施設「ひだキャトルステーション」で12日、開所式と研修生の入所式が開かれた。JAひだ、飛騨市、JA全農岐阜で昨年設立した株式会社ひだキャトルステーションが運営し、飛騨牛の生産基盤強化と担い手育成を行う。

廃業した酪農牛舎を改修、整備した。1万4776平方メートルの敷地に、繁殖牛舎、子牛育成舎、分娩・哺育舎、堆肥舎を備える。繁殖雌牛は最大100頭を導入。子牛を育てて肥育素牛や繁殖用素牛として市場に供給する。研修生の受け入れは毎年度2人までで、研修期間は2年。



開所式で、社長の駒屋廣行JAひだ組合長が「高齢化による子牛生産農家の減

開所した「ひだキャトルステーション」で手を取り合う岩野良徳場長と研修生の永瀬智之さん(右)＝飛騨市古川町中野

少は大きな課題。今後も飛騨牛を維持、発展させるために必要な施設だ」とあいさつ。

第1期研修生の永瀬智之さん(18)＝高山市＝は「良い子牛を育てられる日本一の牛飼になりたい」と決意を述べた。研修後は、繁殖和牛農家の実家で親族と一緒に働く予定。

岩野良徳場長(61)は「事業が軌道に乗る3年から5年後には、子牛を年85頭ほど出荷したい」と目標を語った。
(大成 朋広)